第 19 回一般社団法人愛知県言語聴覚士会学術集会
テーマ：「繋がり」を考える。～地域社会・多職種連携と言語聴覚士～
大会趣旨

ずいぶん昔になりますが、「寝たきりゼロ」という言葉が当時のテレビや新聞紙面で盛んに報じられたことがありました。超高齢化社会を迎えた今、かつての「寝たきりゼロ」は「地域包括ケアシステム」と形を変え、医療・介護・行政が相互に連携した仕組みとして構築されています。今後、2040 年までさらなる高齢化の進展、高齢者の増加が見込まれる中でリハビリテーションについても医療・介護の一体的な運用、生活期リハビリテーションへの切れ目ないサービス構築が求められています。

地域におけるリハビリテーションの在り方についても急性期・回復期と生活期リハビリテーションの連携における人的・制度的問題に加え、退院・退所時の対面でのカンファレンスなど療法士間での連携について相互の情報連携が不十分であるとの実態が明らかになっています。また小児領域でも地域の教育機関と専門療育施設との連携の重要性が報告されています。日本言語聴覚士会では介護予防や地域リハビリテーション人材育成事業を立ち上げており、将来を見据えたカリキュラムを行っています。

19 回目を迎える愛知県言語聴覚士学術集会では「繋がりを考える」をテーマに”地域と共に歩む・多職種と共に支える言語聴覚士”を皆さんと一緒に考えたいと思っています。プログラムでは多彩なシンポジウムを企画しました。地域で活躍している ST より成人・小児それぞれの立場から現場の生の声を届けていただきます。さらに意思疎通支援事業やケースを通したセッションでは多職種連携における繋がりの重要性にも迫って行きたいと思います。また「食道期嚥下」にフォーカスした教育講演や高齢化社会を迎え関心が高まっている「認知症」をテーマにした市民公開講座など様々なコンテンツを準備いたしました。

我が国ではこれからも少子高齢化はどんどん進みます。そして地域包括ケアシステムはさらに推進されていくでしょう。地域と繋がり多職種と連携しながら新たな知見を積み重ねていくことが将来の言語聴覚療法を拓く糧となり、私たちが着実に歩みを進めるための推進力になると確信しています。本大会を通し、コミュニケーション・摂食嚥下リハビリテーションに関わる専門家として「社会から求められていること」「社会に対し何ができるか」ということを考えるきっかけになることを願っています。

今回もオンデマンド配信を利用したハイブリッド開催です。会場は名古屋市中小企業会館（吹上ホール）となりますが、折角の機会ですので学びの場だけで無く互いの情報交換や旧交を深める場として活用していただければ嬉しい限りです。多くの皆様が本大会にご参加下さることを実行委員一同心よりお待ちしています。

第 19 回愛知県言語聴覚士会　学術集会
大会長　豊川さくら病院　田中克典